



ロボット支援下直腸切除(切断)術 ～da Vinci Xi の導入

新時代の手術へ

手術支援ロボット

「da Vinci(ダビンチ) Xi」導入。

前立腺がん、腎がん、
膀胱がん治療に対応。

2018年～直腸がん治療に保険適応



da Vinci Xi
SURGICAL SYSTEM



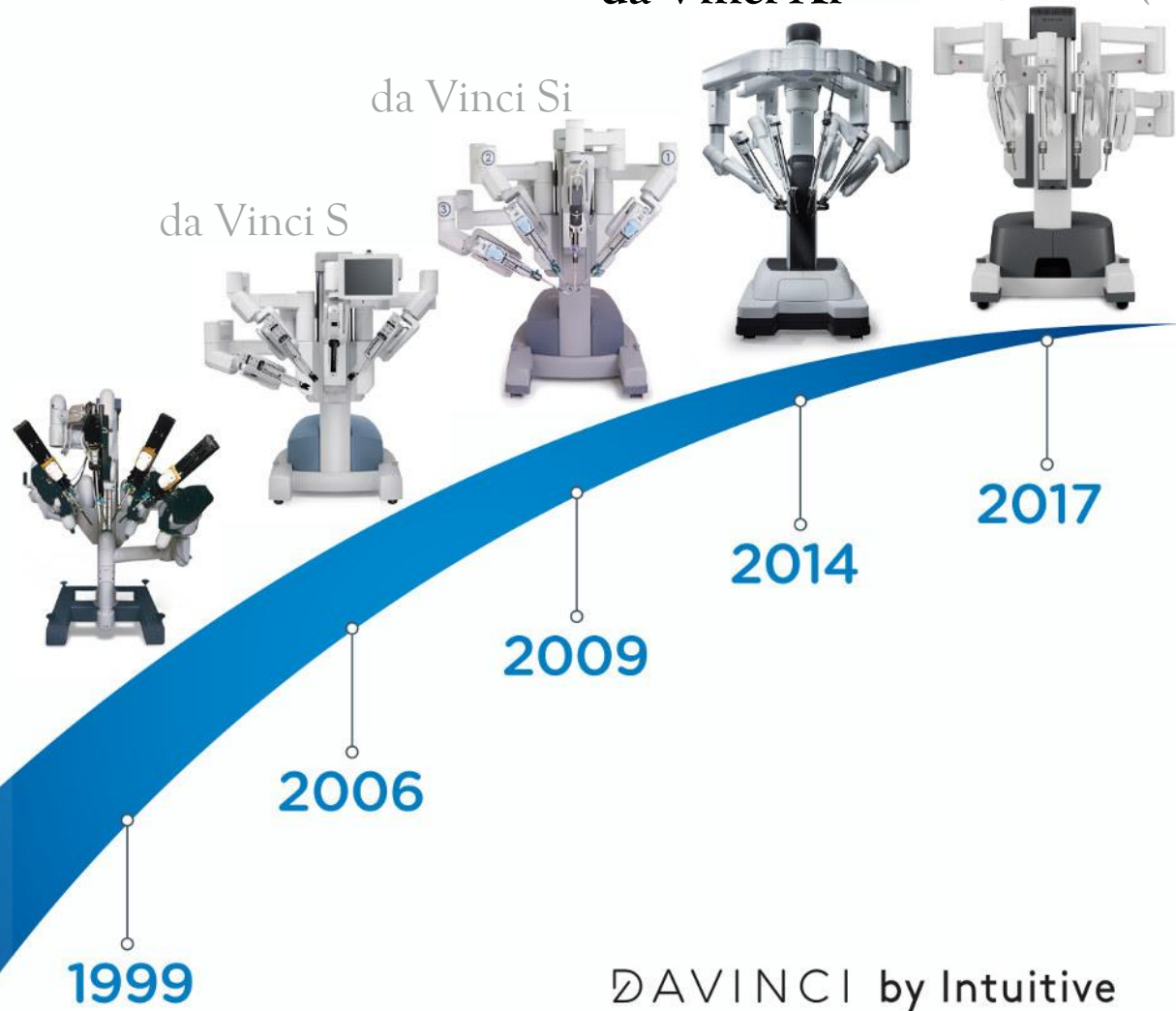
当院導入機種

da Vinci Xi

da Vinci X (Xi の廉価版)

da Vinci Si

da Vinci S



「ロボット支援手術」とは、執刀医がロボットをコントロールしながら行う患者さんの体への負担が少ない手術のことです。現在この手術は『ダビンチ』という器械を使用して行われています。

従来の腹腔鏡手術と同様に、体に小さな穴を開けて行う手術で、術後もさまざまなメリットが期待できます。



da Vinci[®] Xi
SURGICAL SYSTEM
The Next Frontier for Minimally Invasive Surgery

1. きず口が小さい

手術に必要なのは、0.5～1.5cmほどの穴で最大6か所。切除部位を取り出すため、1カ所だけ4cmほどにひろげます。

2. 手術中の出血量が
少ない

『ダビンチ』の動きは精緻で、止血も効果的にできるため、輸血が行われることは、まれです。

3. 術後の疼痛が
少ない

きず口が小さいため、痛みを軽減できます。

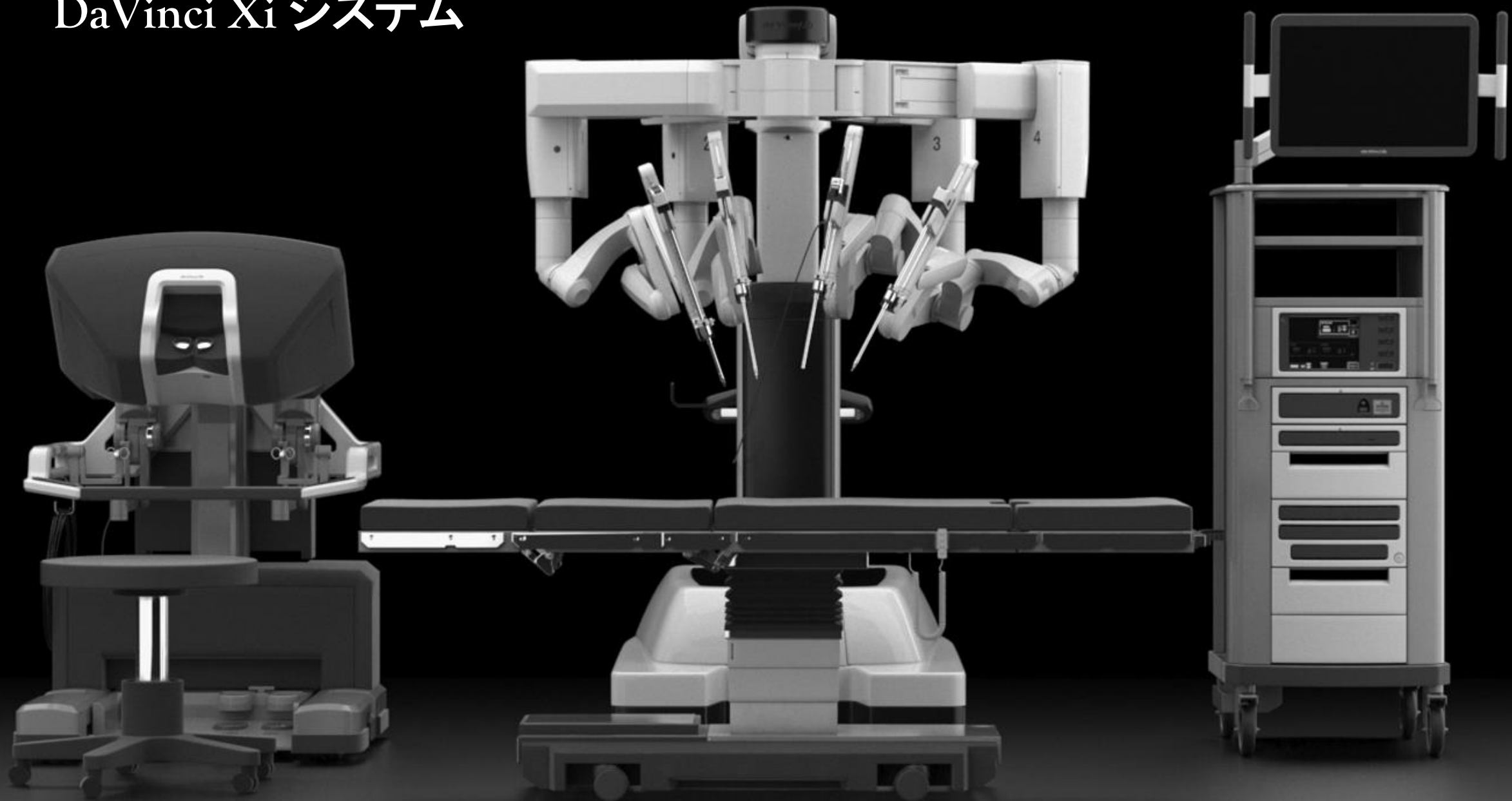
4. 回復が早い

体への負担が少ないぶん、術後の回復が早く早期の社会復帰が望めます。

5. 術後合併症の
リスクが低い

『ダビンチ』の鉗子の動きは柔軟で、緻密で正確です。病変部に的確にアプローチできるため、組織の損傷や合併症を抑えられます。

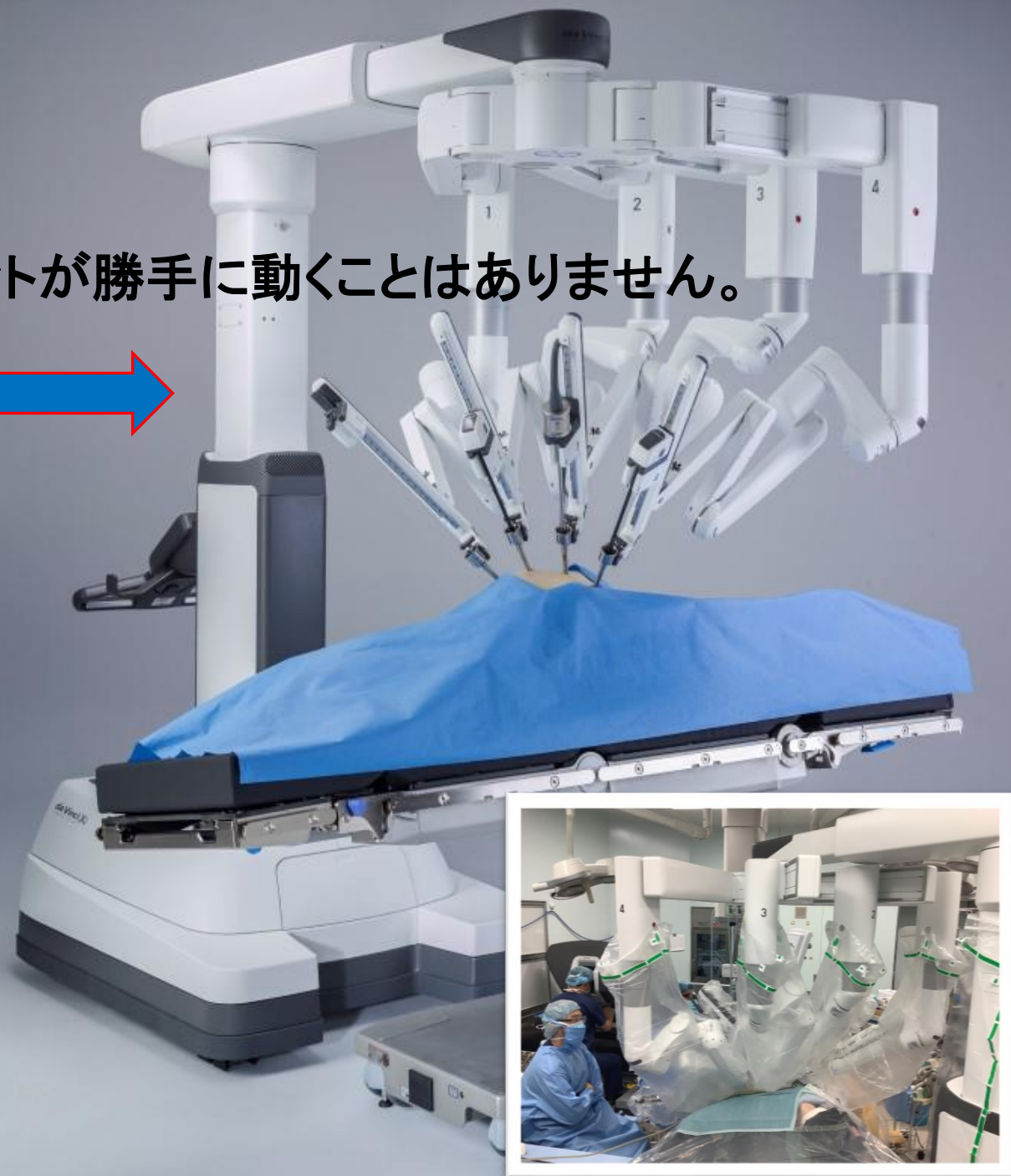
DaVinci Xi システム



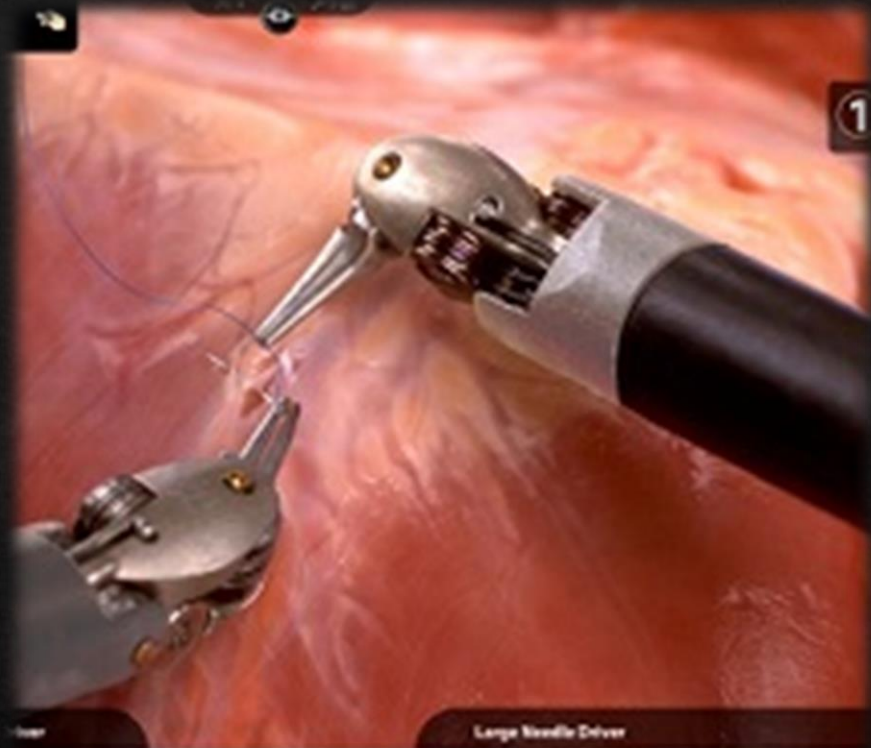


術者が立体画像を
見ながら、ロボットを
操作します。

ロボットが勝手に動くことはありません。

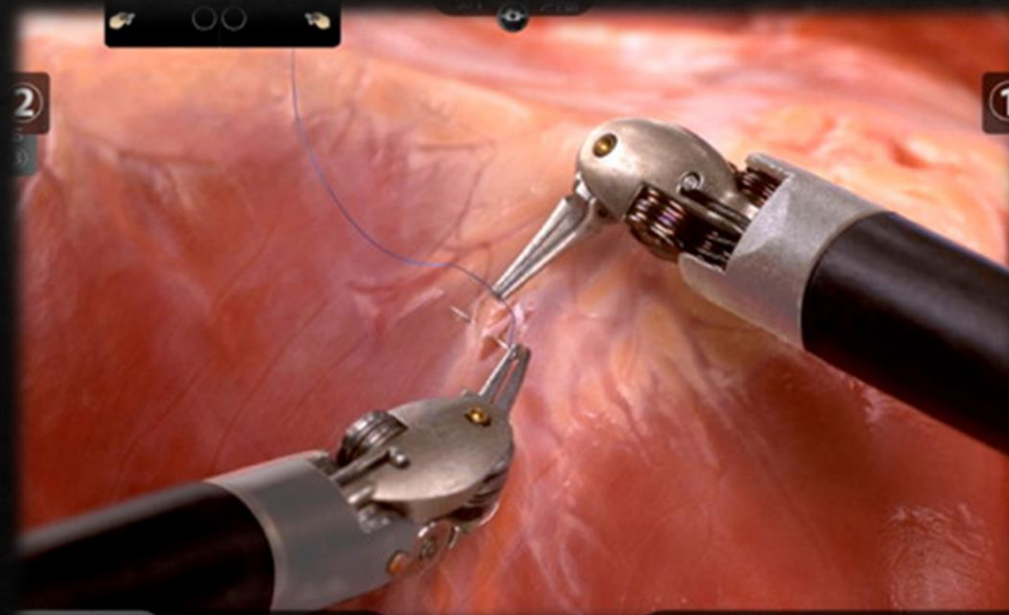


ロボット機能
により期待で
きること



1. 術野が立体的で、広く 鮮明

立体的な 3D モニターで、術野を10倍に拡大して見られるため、細部の手技が正確に行えます。執刀医自身が患者さんの体内に入って手術をしているようにと言われるほど、視野が良好です。



2. 人の指先以上の動きを実現

『ダビンチ』の鉗子は、手首以上の可動域と、柔軟でブレのない確かさを持ち、指先にも勝る細かな動きを可能にしています。

3. 手術中の執刀医の負担を軽減

手ブレ防止機能や、座って手術が行えることで、執刀医の負担を軽減。長時間、高い集中力を必要とする手術の正確性を高めます。

